

町史編さんだより

第2回

『カタクリの自生地を確認』

～自然環境小委員会が調査確認～

「町史編さんだより」の2回目は、自然環境小委員会の調査状況をお知らせします。



可憐に咲くカタクリの花

町内の最高地点の確認と 周辺の自然環境調査

4月25日に日野町史編さん自然環境小委員会の矢田貝繁明、河野利晴両委員が日野町内の最高標高地点の「八郎山」を目指しました。「八郎山」は、板井原地区の北東に位置し、日野町と新庄村にまたがる県境の山です。道はなく、最短距離で登れるのは板井原の内井谷地区からですが、県境周辺の自然環境調査も行うために、新庄村田浪地区から毛無山登山道を登りました。主な調査目的は、町内最高地点の確認とその周辺の植生や動物の調査です。

猛烈な藪こぎの連続

毛無山登山道の9合目付近からブナ林内を北西に横断して、県境に出てから高さが1.5メートル以上あるチマキザサの群落をかき分けながら、新庄村、江府町、日野町の分岐点を目指しました。汗だくになりながら分岐点に着きました。ササが高く、周辺の様子が見渡せず、江府町との分岐が分からないまま「八郎山」の方向に進みました。県境の尾根付近は、風が強いため樹木の生育が困難で、ほとんどがチマキザサ群落で、所々にブナやミズナラと「田浪杉」と呼ばれる天然スギが生育しているだけでした。

キクザキイチゲに出会う



▲可憐に咲くキクザキイチゲ

鳥取県の絶滅危惧種となっているキクザキイチゲは、南部町や江府町には自

生地が知られていますが、日野町内では自生が確認されていません。しかし、江府町俣野地区や毛無山周辺には自生地が知られているため、今回の調査では自生地の確認に期待していました。日野町と新庄村の県境を進んでいるとツノハシバミの下など灌木の下で、ササの薄いところでキクザキイチゲの生育を確認し写真撮影しました。

カタクリの自生を確認

今回の調査で一番期待していたのは、日野町内でカタクリの自生が確認できればということでした。カタクリは、中国山地の県境の山々の所々に生育しており、江府町の毛無山や日南町の船通山が自生地として有名です。「八郎山」は、毛無山の西側に位置し標高も同じ程度なので、生育条件は十分満たしており生育の可能性はあると考えていました。山頂部でササの少ないところがあれば生育の期待ができると思い、ササの少ないところを探しているとピンク色の可憐なカタクリの花に出会いました。目的の植物に出会えたので藪こぎの疲れも忘れて写真撮影をし

ました。カタクリは、尾根部の約50メートルの範囲に生育しており、花が咲いているのを15株、葉だけの若い個体を約40株確認しました。今後このササを除去すれば、数年後にはカタクリの群落になることが予想されます。このままの状況では、ササの繁茂に伴いカタクリも次第に消滅していくものと思われれます。

最高点に到着

カタクリの自生を確認して更に進むとやがて「八郎山」に到着しました。時計を見ると午後2時30分でした。田浪の駐車場を午前9時30分に出発してから、5時間かかってやっと日野町の最高点に到着しました。標高は、国土地理院の地図で見ると1216メートルとなっています。宝仏山(1002メートル)より、200メートル以上高い山です。

帰りの藪こぎの連続で毛無山登山道に合流したところ、ふもとで午後5時を知らせるチャイムが鳴り響いていました。2人とも大変疲れましたが、カタクリの自生を確認するなど有意義な調査となりました。(矢田貝繁明「自然環境小委員会」)

隣保館だより

編集 下榎隣保館
〒689-4526 日野町下榎 157 番地 1
電話：7 2-1 1 9 1 (FAX 兼)
E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp

●『平成28年度 榎の実学習会』開講式

5月9日、下榎集会所で小学校・中学校合同の「榎の実学習会」の開講式が行われました。

開講式には、児童・生徒15人と小中学校の教職員、下榎支部長、教育委員会職員、隣保館職員が出席しました。

式の中で、小中学校の人権教育主任が「本年度は調べ学習のほか、町内に住んでおられるいろいろな方との交流をしていき、地域の皆さんとつながる、そして、それを地域へ返していきながら、つながりを深めていってほしい。年間を通して楽しんで続けられる学習会であってほしい」と激励しました。

●「サツマイモの苗植え」～地域の方から学ぶ学習～

5月24日、今年も地域の方に畑の提供と苗植えの指導をお願いして、恒例の「サツマイモ苗植え」を行いました。今年は、小学生・中学生合同の活動で、当日は雨が降りそうな天候でしたが、無事に植えることができました。秋の収穫祭にはおいしいお芋に出会えることを心待ちにしています。

▶みんなでわいわい。にぎやかな芋植えになりました。



【集会参加報告】「部落解放第61回全国女性集会」に参加して

5月14日と15日の2日間、長崎県立総合体育館を主会場に「部落解放第61回全国女性集会」が開かれました。

一日目の全体会では、記念講演として「世界の人権状況と女性部運動の今後の課題」と題し、中央執行委員で国際連帯部長の和田献一さんの講演を聞きました。

講演では、部落差別・女性差別を引き起こしている背景にある戸籍制度について、制度を支えている封建的家系制度を克服する人権思想を、個人の尊厳や個人として尊重される国際人権の流れの中で考えていく社会全体の意識改革の必要性について話されました。

二日目の分科会では第一分科会「部落解放運動入門」に参加し、2つの活動報告を聞きました。

報告者は、「学生時代から保護者の立場へと部落問題を重ねて学習していくうちに、自分の生い立ちや両親の仕事などを振り返り、教育（学力）＝仕事＝生活という流れの図式ができている」と話し、「部落解放運動は子どもの未来に部落差別を残さないために立ち上がった運動であり、生きていくための原点である」と切実に語りかけました。

二日間の日程でしたが、参加して考えさせられるのは、先人の解放運動の成果で現在の地域での生活と環境があるということです。

差別もだんだんと無くなりつつありますが、まだまだ差別意識が根強く残っているのも事実です。部落差別の現実を知ることの大切さをあらためて確信しました。

(下榎支部女性部 西村千秋)

部落解放月間

県では、毎年7月10日(日)から8月9日(火)を「部落解放月間」とし、皆さんが同和問題を正しく理解し、認識を深めていただくよう、啓発活動を行っています。

町では、啓発パネルの展示と人権尊重標語の掲示を行います。

・・・7月の行事予定・・・

◆13日(水)…健康教室 10:00～11:30 / 老人憩の家

◆16日(土)…生け花 13:30～16:00 / 下榎集会所

◆27日(水)…よってみ^やい家 10:00～11:30 / 老人憩の家

7月中に「生活安全教室(防犯教室)」を予定しています。詳しくは、地区内回覧文書でご案内します。

※学習講座など、お問い合わせは下榎隣保館(電話 72-1191)まで